

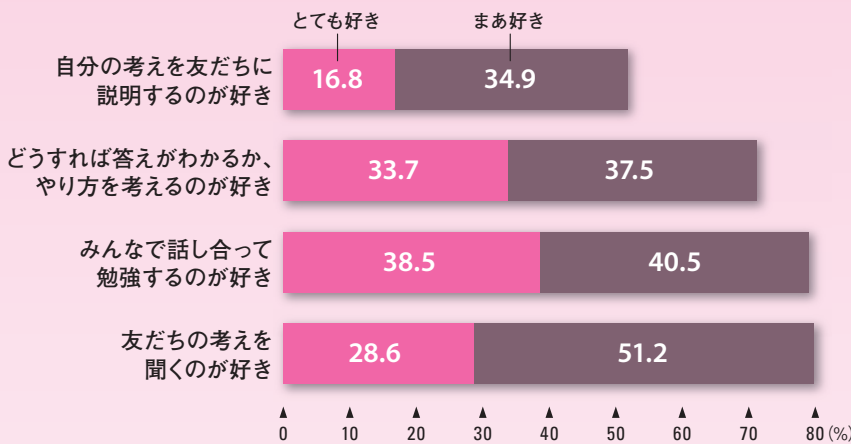
特集

自ら表現したくなる授業づくり

新課程 3 年目となり、各教科の授業では、思考力、判断力、表現力の育成のため言語活動の充実が図られているという。

しかし、ベネッセ教育総合研究所の調査（算数）では、「自分の考えを友だちに説明する」ことに苦手意識を持つ子どもたちの実態も浮かび上がる。今号では「表現力」に着目し、自らの思いを表現したくなる授業づくりについて考えたい。

話し合いや考えることに比べ、自分の考えを友だちに説明することに苦手意識（算数）



* 「あまり好きではない」「まったく好きではない」、無答不明は省略している

算数の勉強で「友だちの考えを聞く」ことや、「みんなで話し合っ勉強する」ことが「好き（とても+まあ）」と回答した子どもは約8割であるのに対し、「自分の考えを友だちに説明する」ことが「好き（とても+まあ）」と回答した子どもは約半数にとどまっている

出典／ベネッセ教育総合研究所「小学生の計算力に関する実態調査 2013」2013年3月実施（全国の公立小学校1～6年生 7,827人対象。この設問は3～6年生 5,308人対象）

◎子どもたちは、どうすれば答えが分かるかを考える楽しさと共に、友だちの考えを聞いたり、話し合ったりするなど、みんなで学び合う楽しさを感じているようだ。いずれの項目も学年が上がるにつれて「好き（とても+まあ）」の比率が下がるという課題はあるが、今後は特に、自分の考えを説明し、それがみんなの学びにつながることを楽しいと感じられる指導が求められる。

ベネッセ教育総合研究所
初等中等教育研究室 研究員
橋本尚美